

# 田中研新聞

# 新年度がスタート

### 新学期がはじまりました。

学生にとって長い（と思われ）春休みも終わり、いよいよ新学期が始まる。春休みというものは大学の規程上は存在せず、3月31日までが後期、4月1日からが前期となる。授業がないのは、入試があり、学位審査があり、年度末の成績処理と卒業判定、会計処理、新年度のための教務的な準備があるからである。要するに、在校生がはたらかなくなりかねないのがこの時期であるといつてもいいだろう。

教員も、この間ずっと忙しいわけではないので、年度末の処理が終われば、あとは、次年度在籍する学生の個別指導、新年度の授業準備をする。研究もこの時期に進めなければならぬ。

ほったらかしにすることにより学生に迷惑が掛からないようにと思うが、多くの学生の感覚は逆であり、ほったらかしにされる権利を主張する学生が時々いる。2月以降に学生を引張り出すと、休む権利が奪われたとか、交通費がかかるだとか、様々なクレームをつける学生がたまにいるので、学生の指導にも留意をしなければならぬ（こういうことを言うのは自殺行為であることは、賢明な諸君はわかってほしい）。そういう状況の中で、2月17日にバイク転倒事故により膝の負傷を負った私は、

第44号  
2017年  
4月10日発行

2017年4月10日号

甲南大学知能情報学部田中研究室 毎月発行  
http://carnation.is.konan-u.ac.jp  
編集長：岡田 航大 (M2)

今の学生の最大の弱点は、パターン認識に限らず、様々な学問分野の内容について、自分で使用場面をイメージできないことのような気がする。一方、実験及び演習では、今年からキネクトを使うテーマに変更された。変更した初年度のため教材作成に例年よりも時間

をかけて準備をしてきた。キネクトを使って、画像や深度データを取得し、それを見ることに学生が興味を持つことは確かだろうが、そのプログラミングはかなり難しい。サンプルプログラムを使って、それに機能を追加するという形の演習になるが、そのためには、

C言語をベースにし、今回少し教えるC++によるプログラミングも理解する必要がある。興味深い内容のものは必然的に難しいということ、受講生はどれくらいわかっているか、それがポイントであろう。何はともあれ、新年度は始まった。（田中雅博）

## 8人が門出

3月25日、卒業式と大学院の学位授与式が行われた。当研究室からは、4年生とM2の学生が巣立った。昼過ぎ、式典のあと諸手続きを済ませた学生たち

が研究室にやってきた。私も彼らに会い、記念写真を撮るのを楽しみにしており、6名の学生たちと別れを惜しんだ。2年前までは全学同時に

卒業式を行っていたこともあり、記念の弁当が卒業生のみならず我々教職員にも配られていたので、それを食べながら雑談ができたのだが、昨年同様、午前と午



後の2部開催となったので、それを機会に弁当の配布がなくなり、別れの惜しみ方がシンプルにならざるを得なくなった。そもそも昔は卒業式の日といえは謝恩会。その日は夜遅くまで大学がある町中が卒業を祝うという雰囲気があったが、今は研究室で酒を飲むことも禁止されていることもあり、まるでゼミをやっているかのような別れになった。

それでも、今年は学生から私に記念品があり、似顔絵をもらった。この手の似顔絵を描くプロに依頼したということだが、私の顔の特徴を捉えており、かつ、ユーモアたっぷりの似顔絵は、大変うれいものである。それ以外にもいくつか物をもらった。逆に、私からは、今年度の卒業論文・修士論文を1枚にまとめたCDと、図書館からKOR制作のお札に預かってきたKORグループの集

合写真や図書館からの記念品を渡した。私は日ごろから言いたいことをこの田中研新聞に書いており、ある程度気持ちは伝わっているように思うが、この場でも、この1年間感じたこと、つまり、ゼミ生同士の間の距離をもっと縮めることができたのもっと大きな成果が上がっていただろうということ、話を話した。当研究室の成果は、知能情報学部の研究室の中ではトップクラスと言ってよい。しかし、それは井の中の蛙の話であ



### 研究室メンバー紹介

はじめまして、大西智也(39歳)と申します。平成29年4月から、博士後期課程の社会人学生として知能情報学専攻で学ぶことになりました。

私の経歴を紹介させていただきます。2000年に理学療法士を養成する大学を卒業、理学療法士として働きつつ、リハビリテーションに関する大学院(修士課程)に進学しました。病院や診療所で理学療法業務に9年間携わり、その後、理学療法士養成校に職場を変え、9年目を迎えます(現在、大学教員です)。

理学療法に携わってきた人が、なぜ専攻に進学するのではないのでしょうか。リハビリテーションの治療の前に、対象者の身体の状態

周囲の院生、学部生の皆さんは私の年齢の半分程度ですが、この分野のことは、私よりもよく勉強をされています。教壇のことが多い院生になると思いますが、よろしく願います。今回の進学で、多くの方々(家族、職場など)に迷惑をかけることは百も承知です。このようなチャンスを与えてくださったことに感謝し、「情報のプロ」になる自覚を持ち、勉学に励みたいと思います。(大西智也)



# 甲南鹿児島 ロボット・コンピュータビジョン研究会に参加

3月17日に甲南・鹿児島  
ロボット・コンピュータビ  
ジョン研究会があり、当研  
究室から田中先生と岡田が  
参加した。今年は鹿児島大  
学で行うことになり、鹿児  
島が初めての私は、研究会  
はもちろんだが鹿児島とい  
う町自体も楽しみだった。  
13時30分から研究会は始  
まり、まずは基調講演とい  
ことで田中先生から先生自  
身の研究内容とKORoに  
ついての講演があった。そ  
の後、ロボットビジョンセ  
ッション、デモンストレー  
ション、コンピュータビジ  
ョン・パターン認識セッシ  
ョンと続き、私はコンピュ  
ータビジョン・パターン認  
識セッションで発表させて  
もらった。移動ロボットを  
行っていたり、Leapm  
otionを使用していた  
り、とてもウチとよく似た  
研究をしている学生も多  
く、大部分の発表はある程  
度理解して話を聞くことが  
できた。ただ、水上走行ロ  
ボットや、ドローンを用い  
て農作物を観察する研究な  
ど、なかなかウチでは難し  
い規模の研究も行ってお  
り、また別の団体や学部と  
の共同研究も多かったの  
で、そのあたりと、大学院  
生の多さや学部生のモチベ  
ーションの高さは少し羨ま  
しくも思った。

他大学のかたとの交流の  
機会はそう多いものではな  
いが、交流するたびに自身  
のモチベーションにもつな  
がるので、こういう機会は  
億劫だとも思わないし、も  
っと多くこういう機会があ  
っても良いとも感じてい  
る。そういった意味でも学  
会はいいい機会なのだが、学  
会だとなかなか深みのある  
霧島神宮も初めて見たが、  
（そこまで研究が進んでい  
ないので、質問に値しない  
と言われればそれまでだ  
が）そういう意味でも、今  
回のような研究室交流の研  
究会は非常に充実したもの  
だった。

飛行機の時間の関係もあ  
り、2日目は鹿児島市内と  
霧島神宮などを観光した。  
鹿児島市内では主に薩摩藩  
の歴史やいきさつなどを学  
ぶことができ、中でも心に  
残っているのは当時の若い  
薩摩藩のメンバーが留学を  
おこなった話で、慣れない  
船での生活のなか2週間で  
英語を扱えるようになり、  
向こうの学校で勉強したと  
いうエピソードで、かれこ  
れ10年以上英語の勉強をし  
ているにもかかわらず、ま  
ったく扱うことができない  
自分を少し恥じた。勉強す

# 研究室でPython勉強会

春休みに、1度もプログ  
ラミングをしない学生が多  
くなることを危惧して、希  
望者のみではあるが、Py  
thonの勉強会を研究室  
内で行った。私自身も研究  
でPythonは使ってい  
るが、使い慣れているかと  
言われれば、まだまだなの  
で一応音頭は取りつつ、私  
も勉強しつつやらせてもら  
った。導入部分がつつぽり  
抜け落ちていた私として  
は、大変有意義な時間だっ  
た。まず、なぜ今Python  
なのかという部分を話  
すことから始めた。

田中研究室でのPyth  
on利用はKORoの一部  
プログラムで、RTミドル  
ウェアの対応言語のひとつ  
というのが大きい。世の中  
の流れはというと、Pyth  
on自体はWeb系も組  
み込み系にも多種多様なモ  
ジュールによって大体なん  
でもできるのだが、Pyth  
onで開発しているとい  
うのは就活をやっているも  
あまり聞かない。人工知能  
ブームと呼ばれる昨今、多  
くのディープラーニングブ  
ームやワークがPython  
で提供されているため、  
そっちの分野の人間は否が  
応でもPythonを触る

一番の材料は執念だとは  
思うのだが、まだ私は英語  
に対する執念が足りていな  
いのだと思ふ。わかつて  
いるのならさっさと勉強し  
ろというものではあるが、  
霧島神宮も初めて見たが、  
思っていたよりも外国人の  
方が少なく、昨今の外国人  
ばかり状況を見ると、少し  
珍しい気もした。もちろん  
タイミングの問題で、いつ  
もはもつと外国人の方も多  
いのではないかとと思うの  
だが、観光面で心残りがあ  
るとすれば、白くまアイス  
を食べ損ねたことと、時間  
の都合で指宿の方には行け  
なかつたことだ。そつちは  
今後プライベート訪れたと  
きにでもかなえようと思っ  
ている。鹿児島自体が初め  
てだったのもあり、見るも  
のすべてが新鮮で、研究会  
以外の部分でも楽しい時間  
を過ごすことができた。こ  
のような機会を作ってくれ  
た先生方に感謝したい。お  
世辞抜きに鹿児島という町  
そのものに魅力を感じたの  
で、また今度プライベート



でも鹿児島に行きたいと思  
った。  
鹿児島大学の研究室を見  
たことと、4回生の卒業式  
の先生からの言葉を聞いて、  
改めて「研究室」をど  
うすればよいものにする  
のかを考える、いいきつ  
けにもなった。今KORo  
といういい題材もあるの  
で、チームで何かをする環  
境としてはとても良い環境

がある。それを活かされ  
ていないのが現状で、それ  
を活かすためには何をすれ  
ばいいかと考えると「勉強  
会」や「KORo研究会」  
だ。私自身もつと頑張れる  
と自分でも思っているし、  
現状を限界だと定めたくは  
ないのだが、一人でやるこ  
とのモチベーションには限  
界があるのも確かである。  
以前研究室で1人1つ企画  
を考えて、毎月それを実行  
する、というのは案外いい  
のではないかとと思うが、  
一体どれほどの人が賛同し  
てくれるのかと考えると、  
なかなかできないのも事実  
だ。「勉強会」や「KORo  
研究会」も、できること  
なら私からだけではなく色  
々な人から提案があればと  
も思うし、提案ができるよ  
うになればいい研究室に近  
づくのではないかと  
思う。そのためにはまずは  
研究室のメンバー同士が仲  
良くなって、気軽に雑談で  
きるようになることから始  
める必要があるのだと思  
う。(岡田航大)

ことになる。人工知能が流  
行れば流行るほど、まずは  
Pythonで手軽に試  
す。という人も増えてPy  
thon人口は増えている  
のだと思ふ。あとはWe  
bスクレイピングと呼ばれ  
ている分野でもPython  
が一步リードしている。  
何せ多様なモジュールのお  
かげで、色々なことができ  
るので色々な人が利用し  
ている。大体どんなOSでも  
動くというのも大きい。M  
acやUbuntuなどで  
は最初からPythonは  
入っている、利用する  
ことを推奨しているのだろ

う。そんな状況からか、ネ  
ット資料が充実しているの  
がPythonの現状だ。  
また、「この言語だけはや  
るな!」という胡散臭いラ  
ンキングでは、CやJava  
などの主要な言語が軒並  
みランクインしている中P  
ythonだけはランキン  
グしていなかった。それほ  
ど今Pythonの注目度  
は高まっているのだと思  
う。

人工知能ブームでPyth  
onが多く利用されてい  
るのはChainerや  
Tensorflowとい  
ったフレームワークの存在  
が大きく、Chainer  
に至ってはコマンド1つで  
導入できる手軽さが挙げら  
れる。また、ディープラー  
ニングで必須の行列計算も  
NumPyと呼ばれるモジ

ュールがある。それ以外に  
も機械学習によく利用され  
るモジュールもあつたり、  
画像を加工できるOpen  
CVやPILなども充実し  
ている。このあたり、C言  
語で実装すると結構大変な  
作業量なのだが、Python  
だとコマンドライン上  
でコマンドをpipコマ  
ンドやcondaコマンドを  
うっただけで実装できる。こ  
の手軽さが人気の秘訣であ  
ろう。

Pythonの環境構築  
は、実用上はAnacon  
daと呼ばれるツールで行  
うのが間違いなくいい。特  
に仮想環境は優れたもので、  
Pythonのバージョン  
の違い、フレームワーク  
のバージョン違い、などの  
環境を簡単に作ることも壊  
すこともできる。研究Py

thonを使用している  
と、どうしてもサンプルコ  
ードを参照することがある  
が2系と3系が違うだけで  
も動かないし、フレームワ  
ークやモジュールのバージ  
ョンが違っても動かない場  
合がほとんどだ。その時に  
仮想環境で「動いた」とい  
う実績のあるバージョンに  
そろえて動かしてみるとい  
うことはよくある。これが  
普通のPythonだと自  
分でいちいちリネームする  
必要がある。また、Ana  
condaにはSpyde  
rと呼ばれる統合開発環境  
があるので、それも多くの  
人が愛用している理由の一  
つだと思ふ。

勉強会では、本ではなく  
ウェブサイトを参照してP  
ythonの勉強を行っ  
た。しかし、2時間程度の

# 私のアルバイト史 第4回

ファミリーマートの件と  
は別件で、毎年12月5月  
ごろまで新入生事業と呼ば  
れる、説明会など新入生に  
対するサービスを展開する  
アルバイトもあつた。1回  
生のときから参加はしてい  
たのだが、私が音頭をとっ  
ていわゆるリーダー的なボ  
ジションに就いたのは4回  
生のころの新入生事業から  
だった。新たに新入生用の  
冊子を作ったり、説明会で  
学生スタッフに指示を出し  
たりと初年度は新しいこと  
だらけで、大変な思いをし  
た記憶がある。ただ、その  
分色々な新入生と触れ合い  
実際に礼を言われること  
も多かったのだ、やりがい  
はあるアルバイトである。  
院生になつてからも新入

生事業だけは前と変わらず  
継続しており、昨年度は学  
生スタッフと職員さんを見  
て泊りがけで合宿を行  
い、商品に関するこのプ  
レゼンや、説明のシミュレ  
ーションを行い、つい先日  
行われた説明会では参加者  
の方の満足度を伸ばすこと  
ができた。売り上げ自体は  
もうほぼ限界とも思われる  
ペースで伸びて  
いるので、今年も伸び悩ん  
だが、土台となる部分は築  
けたと感じている。おそら  
く私がいなくなつても今ま  
でと同じか、さらに進化し  
たパフォーマンスを魅せる  
ことができると思うところ  
までできている。それだけで、  
リーダー冥利に尽きるもの  
である。(岡田航大)

# 編集後記

新年度が始まり、講義も  
始まり、学生のうちに見る  
桜はこれで最後なのかなと  
思いつつ桜を見て傷心(?)  
しています。TA自体は今  
年1つ増えて昨年度と比べ  
てまた忙しくはなりました  
が、よく考えると昨年度は  
ここに授業があつたので、  
やっぱり昨年度の方が色々  
なものに追われていたのだ  
とは思っています。

ようやく鹿児島に行くこ  
ともできて、九州はすべて  
の県を制覇することができ  
ました。残る都道府県は山  
形と秋田と群馬です。山形  
は蔵王温泉に行くチャンス  
があつたのですが、金銭面  
で意外とかかることがわか  
り断念しました。群馬は草

津温泉に行ければとも思っ  
ています。秋田はというと、  
私の学がないせいで、ぱつ  
と思いつく観光地がなく今  
の今まで来ています。ざつ  
と調べたところ角館武家屋  
敷に興味がありますが、そ  
のためだけに、というほど  
ではないのが困つたところ  
です。今年いっばいでこの  
3つの都道府県に周るのは  
少し厳しい気もしますが、  
なんとかチャレンジしたい  
と思つています。

新年度が始まり、KORo  
もまた定常起動に戻りま  
したので、大変な日々が続  
きますが、今年度はより一  
層頑張つて、最後の1年を  
より充実したものにしたい  
と意気込んでおります。早  
く就活も終えたいとは思  
いますが、こればかりはなん  
ともなりません。後輩に、  
「岡田さんの就活心配して  
るのは岡田さんだけだす  
よ」と言われましたが、そ  
んなことはないと思いま  
す。(岡田航大)

# 研究室対外予定

4月16日(日) オープ  
ンキャンパスで、KORo  
のデモ、来場者カウンタ、  
ラジオ体操デモ▼4月23日  
(日) 酒心館にて、はん  
しん高齢者くらしのフェア